

# ★檀家さんに聞く



もうすぐクリスマス、クリスマスと言えばケーキ、ケーキと言えばイチゴです。♡  
今回紹介する檀家様は日高村では珍しいイチゴを栽培されています。

ポカポカと温かいハウスの中で、ニコニコと取材に応じてくれました。



日高村大和田在住の  
山崎静子さん  
村内のイベントでたこ  
焼きの出店もされてい  
ます。

④うわあ～、広いですねえ！

①まあなにしろ苗がようけ要るけたまらん。7000から8000ばあいるきねえ。1番、2番、3番と一つの株のなかで順番に実っていくわね。品種は全部『紅ほっぺ』やけど、今年は本当に枯れなもん！病気がいっぱい！ようよう獲れよらあね。

④一つの株から何個ぐらい獲れますか？

①そうねえ・・・、例えばこの株やったら花が12ついちゅうわねえ。あとにかく枯れを除けて養生せないかんのは大変でえ。

④順番に実らせていくことには何か工夫があるんでしょうねえ。

①そらあね、芽が出てきた時に専門家の人に顕微鏡で見てもうたりもしゆう。それこそこの間JAの指導員の人が来てくれちょっと「1番を7、2番を5、3番を3の七五三で獲ってみてください。」って言われたけんど、なかなか難しいで。(笑)

④やっぱり12月のクリスマス前の出荷が多いですか？

①うん、日高の渋谷食品さん(芋屋金次郎)のケーキにのせてもらひゆうで。けんどねえ、だいたい12月から収穫が始まるがやけど、最初に獲るのは粒が大きいがよ。でもケーキ屋さんが欲しいのは粒が小さいほうやきねえ、逆やつたらぼっちりいくがやけんど。(笑)

④日高村では珍しいイチゴを始めようとしたきっかけは？

①もともと20年間ナスを作りよったがよ。けんど、うちハスも立派じゃないし台風の時分のビニールの張替えも大変やろ。その点、イチゴは夏場のビニールを張らんでいいって人から聞いてねえ、それで始めてみたがやけんど、イチゴの高設栽培をやりゆうがは日高村ではうちだけよ。(笑)

④地床じゃなくて高設栽培でやる理由は何ですか？

①ん～、地床はずっとしゃがんでやるのが大変よ！(笑)

ランナーと呼ばれるツル状の茎の状態を見定める山崎さん御夫婦。  
作業のほとんどを二人三脚阿吽の呼吸でこなします。

けんど高設でずっと立って作業するのもぞんがいしんどくなってきた。(笑)

④暖房はどうやって効かしゆうがですか？

①土の中にボイラーで温めた温水が流れるパイプが通つちゅうがよ。けんどそのボイラーも26年の豪雨で浸かってしもうて買い換えた。この高設の苗床も全部浸かったで。あれは本当に大変やった・・・。隣のハウスに株を並べて台においちよったのが、全部ハウスの端へ流れて固まっちゃったきねえ。

④1年を通して一番やりがいを感じるのはどんな時ですか？

①そりあ、イチゴが実ってハウス一面が真っ赤に色付いたときは壯觀よねえ、お父さんとしばらく眺めよ

ミツバチも受粉を助けて  
大活躍。



根付いたランナーから新しい株ができます。



らあね。それに、この先は寒くなる  
温室のハウスに入ったらホッとする  
のが、唯一の安らぎよ。(笑)  
でもねえ、こないだらあ夜にハクビ  
シンが入っちゃったにかわらん。そ  
れで朝、それも大きなピンクの糞が  
あるがよ。まあどれればあイチゴが食  
べられたかという事よ！(笑)

